

# 社会安全学部 推奨科目グループ



## CONCEPT

大学では履修する科目を自らデザインすることができます。とはいえ、高校までの学び方との違いに戸惑う学生もいるでしょう。

「社会安全学部 推奨科目グループ」は、社会安全学部の教員が次のいずれかのテーマに沿って学生の皆さんに提案する履修科目の組み合わせです。

テーマA:「もし私が社会安全学部の学生だったら」

テーマB:「○○を学びたい」

テーマC:「○○になりたい」

履修計画を立てる際にどのような視点を持てば良いのか、そのいくつかの例を示したものです。時間割の関係で実際には提案通りに履修できないケースもあるかもしれませんが、本学部での学びを少しでも充実させるために有効に活用してくれることを願っています。

	1年次	2年次	3年次	4年次
	4年間の学びの土台となる知識を、基礎科目として幅広く段階的に学びます。	防災・減災、事故防止、危機管理についての専門性を高め、安全に関する知識を深めます。	将来の目標や興味・関心に合わせて、高度な専門知識と実践力を養います。	
基礎科目群	必修科目 選択必修科目 選択科目 共通教養科目 外国語科目			
専門科目群	共通専門科目	社会災害マネジメント科目 自然災害マネジメント科目		
統合科目群	選択実習科目 入門演習	基礎演習	社会安全実践演習 専門演習	卒業研究
自由科目群	教職・その他科目			

# 社会安全学部 推奨科目グループ(2026年度入学生用)

---

## 目次

---

### 《テーマA:「もし私が社会安全学部の学生だったら」》

1	もし私が社会安全学部の学生だったら (耐震工学: 一井康二) . . . . .	<u>P 1</u>
2	もし私が社会安全学部の学生だったら (製品安全: 伊藤大輔) . . . . .	<u>P 2</u>
3	もし私が社会安全学部の学生だったら (総合防災・減災: 奥村与志弘) . . . . .	<u>P 3</u>
4	もし私が社会安全学部の学生だったら (地盤災害: 小山倫史) . . . . .	<u>P 4</u>
5	もし私が社会安全学部の学生だったら (防災・減災政策: 永松伸吾) . . . . .	<u>P 5</u>
6	もし私が社会安全学部の学生だったら (ヒューマンエラー: 中村隆宏) . . . . .	<u>P 6</u>
7	もし私が社会安全学部の学生だったら (地震災害: 林能成) . . . . .	<u>P 7</u>
8	もし私が社会安全学部の学生だったら (プラント安全: 細川茂雄) . . . . .	<u>P 8</u>
9	もし私が社会安全学部の学生だったら (行政法・地方自治法: 山崎栄一) . . . . .	<u>P 9</u>
10	もし私が社会安全学部の学生だったら (消費者安全: 岡本満喜子) . . . . .	<u>P10</u>
11	もし私が社会安全学部の学生だったら (安全の思想: 菅原慎悦) . . . . .	<u>P11</u>
12	もし私が社会安全学部の学生だったら (公衆衛生学: 中間千香子) . . . . .	<u>P12</u>
13	もし私が社会安全学部の学生だったら (応用データサイエンス: 福井敬祐) . . . . .	<u>P13</u>
14	もし私が社会安全学部の学生だったら (水災害論: 大野哲之) . . . . .	<u>P14</u>

### 《テーマB:「〇〇を学びたい」》

15	企業のリスクマネジメントを学びたい (リスクマネジメント論: 亀井克之) . . . . .	<u>P15</u>
16	ものづくりの基本と安全性を学びたい (事故のシミュレーション: 川口寿裕) . . . . .	<u>P15</u>
17	都市政策やすまい、まちづくりの安全を学びたい (都市計画・まちづくり: 越山健治) . . . . .	<u>P16</u>
19	企業の事故・災害と危機管理に関して学びたい (法企業倫理・コンプライアンス論: 高野一彦) . . . . .	<u>P16</u>
20	自然災害のシミュレーションを学びたい (水災害論: 高橋智幸) . . . . .	<u>P17</u>
21	人間が災害や事故をどのように判断するのかを学びたい (リスクコミュニケーション: 土田昭司) . . . . .	<u>P17</u>

- 22 リスクコミュニケーションはどのようなものなのかを学びたい  
(リスクコミュニケーション：土田昭司) . . . [P18](#)
- 23 社会科学から防災・減災を学びたい (消防行政：永田尚三) . . . [P18](#)
- 24 ヒューマンエラーに関わる諸課題と実践的対応を図るための手法を学びたい  
(ヒューマンエラー：中村隆宏) . . . [P19](#)
- 25 心身の健康に関する研究手法を学びたい (労働安全衛生論：廣川空美) . . . [P19](#)
- 26 運輸の安全について学びたい (交通システム：吉田裕) . . . [P20](#)
- 27 事故を起こしたときに問われる責任について学びたい (事故調査制度論：岡本満喜子) [P20](#)

## 《テーマC：「〇〇になりたい」》

- 28 自然科学的な視点から事故を議論できるようになりたい  
(事故のシミュレーション：川口寿裕) . . . [P21](#)
- 29 事故や災害を専門とするジャーナリストになりたい (災害情報：近藤誠司) . . . [P21](#)
- 30 企業の経営者・経営幹部になりたい (法企業倫理・コンプライアンス論：高野一彦) . [P22](#)
- 31 大企業のコンプライアンス部門、リスクマネジメント部門で働きたい  
(法企業倫理・コンプライアンス論：高野一彦) . [P22](#)
- 32 科学コミュニケーターとして活躍したい (災害心理学：元吉忠寛) . . . [P23](#)
- 33 保険会社で働きたい (保険論：桑名謹三) . . . [P23](#)
- 34 社会で求められている IT・AI人材になりたい (情報セキュリティ：河野和宏) . . . [P24](#)
- 35 国際的な防災・減災に貢献できる人になりたい (防災教育：城下英行) . . . [P24](#)
- 36 「社会調査士」になりたい (社会調査：菅磨志保) . . . [P25](#)

## もし私が社会安全学部の学生だったら



一井 康二  
(耐震工学)

### CONCEPT

社会安全学部に入學する学生には、公務員志望の方を多く見かける。しかし、消防士志望の人などを除くと、公務員の仕事をあまりイメージできていない人が多いように思う。私が大学の4年生のころは、国家公務員試験の問題は公表されていなかった。このため、各研究室で分担して問題を記憶し、毎年の問題例のデータベースを構築することになっていた。そして、私にも当番が当たったので公務員試験を受験することになり、気がついたら合格して当時の運輸省(現在は国土交通省)に入った。つまり、公務員になったのである。工学部出身なので、技官、とよばれる技術系の公務員だった。

安全な暮らしは、しっかりとした社会インフラにより支えられる。このため、国でも地方自治体でも、技術系公務員が活躍する場が数多くある。企業でも同じだが、事務職ばかりでは実際の活動は回らない。つまり、実際の現場の状況を理解して、戦力となる人がいなければ物事は前に進まないで、国や地方自治体でも技術職はととも必要とされている。

「公務員講座を受講したほうがよいか」という質問を新入生や受験生から受けることがあるが、公務員講座で想定している職種はほんの一部であり、技術系公務員などの受験は必ずしも想定していない。実際の公務員には様々な職種があり、それぞれの職種で必要とされる能力の違いなどをきちんと理解して進路を定める方がよいと思う。

もし、今、私が社会安全学部の学生だとしたら、文理融合学部のメリットを最大限に利用する。つまり、社会安全学部が提供する講義で、公務員講座的な知識を身に付けて、技術系の科目も学ぶことで、技術系の公務員を目指す。例えば、土木分野の技術系公務員が学ぶべき学問として、水理学、土質力学、構造工学の3科目があるが、水災害論と地盤災害論と耐震工学の3科目で、ある程度はカバーできる。大学は4年間あるから、高校では文系コースであったとしても、しっかり学びなおしをすれば大丈夫である。

大学の授業を利用して他人と違う武器を身に付けておくことが、長い目で見るとお得な人生につながると思う。

### CURRICULUM

1	社会安全のための数学I 社会安全のための数学II 社会安全のための統計学 法学概論 行政学 AI実習	
2	地方自治法 公共政策論 リスク評価法 応用データサイエンス GIS実習	
3・4	水災害論 地盤災害論 耐震工学 防災まちづくり	災害調査実習 災害シミュレーション実習

## もし私が社会安全学部の 学生だったら



伊藤 大輔  
(製品安全)

### CONCEPT

私は機械工学を専門にしており、自動車衝突安全、傷害防止などを主に研究している。例えば、力学の観点から人にかかる力を分析し、その結果に基づく被害軽減方法を検討している。

これまでは理系的思考で安心安全な社会の実現を目指した研究をしていたが、私が社会安全学部に来て感じたこととして「技術だけでは安全を確保できない」ということである。言い換えると、“そもそも安全とは何か”、“安全な状態を維持するためには人や社会がどのようにすべきか”ということも考慮することで初めて安全を確保できるという考えに至っている。

これまでの知識はあり、これから勉強するという前提であれば、「安全」という言葉の意味を多角的に考えるという意味で、下記のような科目を選択すると思われる。

### CURRICULUM

1	社会安全学総論I 社会安全学総論II 科学技術史と社会 安全と法制度 社会心理学
2	安全の思想 社会技術論 消費者安全関連法 リスク評価法 リスク認知論 リスクと災害の経済学
3・4	社会調査実習I 社会調査実習II 社会安全実践演習 (危機管理計画立案)

## もし私が社会安全学部の学生だったら



奥村 与志弘  
(総合防災・減災)

### CONCEPT

過去半世紀の間に実施された我が国の防災・減災の取り組みの効果は、「自然災害による死者・行方不明者数70%減」という形で結果に表れている(ただし、一度に千人以上の犠牲が出る巨大災害を除く)。

では、次の半世紀は何を目指して防災・減災に取り組むべきなのか？これは私たちや皆さんの世代が決めることである。たとえば、次の半世紀で1970年代と比べて90%減になることを目指す場合は、現状よりもさらに20%犠牲を減らさなければならない、どのような方法を用いれば、どれくらいの期間でどの程度の効果が期待できるか？また、そもそも私たちはどこまで犠牲を減らすことができれば安全な社会に生きていると思えるのか。

もし私が社会安全学部の学生だったら、事故対策、感染症対策、労働安全衛生、防犯など防災以外の安全・安心に関する取り組みにヒントを得て、上記の問いに対する自分なりの解を導こうとするだろう。なぜなら、これまで誰もやっていないことであり、また、既存の他学部ではできないことだからである。

### CURRICULUM

1	製品安全論 安全システム論	
2	安全の思想 社会技術論 ヒューマンエラー 群集安全論 事故調査制度論	
3・4	公衆衛生学 流行病の制御学 食の安全学 労働安全衛生論	メンタルヘルス論 治安政策論 犯罪論

## もし私が社会安全学部の学生だったら



小山 倫史  
(地盤災害)

### CONCEPT

私は土木工学の中でも地盤や岩盤工学を専門としており、豪雨に伴う土砂災害、地震による地盤災害、老朽化する社会インフラの維持管理、高レベル放射性廃棄物の地層処分、文化財石垣や石積建造物の補修・保全などの研究を行っている。これらの研究を遂行するにあたり土木工学の専門知識が必要であることは言うまでもないが、土木工学の知識だけでこれらの課題を解決することはできず、文理の垣根を超えた異分野の専門知識を必要とする場面に度々遭遇する。例えば、豪雨時の土砂災害に対する早期警戒・避難の問題について考えてみよう。土砂災害に備えるためには、まず、土砂災害の発生メカニズムやその対策について理解しておく必要がある。また、早期避難においては、災害情報が重要な役割を果たす。土砂災害警戒情報の精度向上といった技術的な課題もあるが、防災気象情報や避難に関する情報が発表されてもなかなか避難行動に繋がっていないという現状があり、避難行動に関する人間の心理の問題がある。そもそも土砂災害リスクの高い中山間地は高齢化が進むなど社会経済構造上の問題を抱えているケースも少なくない。その他にも、土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域の指定に関する問題もある。このように土砂災害に対する防災・減災を考えるだけでも、問題は多岐にわたり、これらを解決しようとする、文理の垣根を超えた幅広い専門知識が必要になることがわかる。上記の例においても、土木工学を中心とした工学以外に情報学、心理学、社会学、経済学、法学、教育学といった異分野の専門分野の知識が必要となってくる。

もし、今、私が社会安全学部の学生だとしたら、社会安全学部が提供する多岐の専門分野にわたる多様な講義の中から以下に挙げるような科目を受講するのではないと思う。

### CURRICULUM

1	社会安全のための数学I 社会安全のための数学II 安全の思想 安全と法制度 社会心理学 AI実習	
2	社会安全のための統計学 応用データサイエンス 地震災害論 耐震工学 災害情報論 防災行政論	防災教育 GIS実習
3・4	水災害論 地盤災害論 総合防災・減災論 災害心理学	社会安全実践演習 (合意形成、危機管理本部運営) 災害事例分析 災害シミュレーション実習

## もし私が社会安全学部の学生だったら



永松 伸吾  
(防災・減災政策)

### CONCEPT

私は今でこそ経済学を教えているが、学生時代は法学部政治学科で学び、一時は政治家を志したこともある。なので、社会安全学部で学んでいたとすれば、災害の被害をどのようにして減らすのかという問題を、技術面ではなく制度面から追求したいと思っただろう。そのため、1年生では行政学、経済学概論、安全と法制度といった社会科学系の科目を中心に履修すると思う。

ただし、こうした科目は考え方を示してはくれるが、自分の力で社会の問題を把握するためには不十分だと思う。社会の問題はその場に転がっているものではない。恐らく政治家をはじめ政策に関わる人々にとって最も重要なことの一つは、社会の中に存在する問題を発見する能力だと思う。現場に入って観察するアリの目と、大局的な視点で世の中を観察する鳥の目と両方が必要である。

そのためには、社会調査の基礎や、統計データ解析実習、GISといった、社会の問題を分析する手法を学ぶことが重要だと思う。加えてこうした科目は、明らかに学んだ人と学んでない人とで出来ることに差が出るし、その上で社会科学の科目を学べば、政策を構想する能力は飛躍的に高まると思う。

それは決して公務員や政治家のみに求められる能力ではなく、特に大企業・グローバル企業で働く人々には是非身につけて欲しい能力である。

### CURRICULUM

1	社会調査の基礎 災害事例分析 行政学 経済学概論 安全と法制度	
2	応用データサイエンス 防災まちづくり 災害復旧・復興論 環境政策論 地方財政論 事故調査制度論	GIS実習 統計データ解析実習I 統計データ解析実習II
3・4	リスク評価法 リスクと災害の経済学 公衆衛生学	社会調査実習I 社会調査実習II

## もし私が社会安全学部の学生だったら



中村 隆宏  
(ヒューマンエラー)

### CONCEPT

「社会安全」に関わる課題は極めて広範囲な領域に広がっている。その中から何を選ぶべきか迷うのであれば、まずは誰にでも関係するような、身近な課題からアプローチしてみてもどうか。

一つは、「交通事故」に関する課題が挙げられる。近年、国内の交通事故死者数は減少傾向にあるが、それでも多くの方が交通事故の犠牲になっている。交通事故はドライバー（運転者）だけの問題のように捉えられがちだが、歩行者や自転車・公共交通機関の利用者など、日常生活を送るほとんどの人々に関係する極めて身近な問題でもある。さらには、交通事故という一つの断面からでも、人間の特性や限界、人間・環境・技術のバランスといった課題が見えてくる。

もう一つは、「労働安全衛生」である。将来、ほとんどの人が「仕事をする」ことになるが、その仕組みや、労働の中に存在するリスクについて、就職する前に詳しく知る機会はそれほど多くはない。近い将来、健全かつ健康に働き続けるためにも役立つだろう。

以上のように、様々な講義の中から何を選んでよいか分からない、といった場合には、ひとまず身近な課題に目を向けてみて、さらに掘り下げるべきテーマを探してみてもどうか。さらには、興味を持てるテーマが見つかって以降に戸惑わないよう、具体的な研究・調査等の手法を、早い時期に身につけておくべきだろう。

### CURRICULUM

1	心理学 社会心理学 社会調査の基礎 災害事例分析 社会安全のための統計学	(製品安全論) (安全システム論)
2	ヒューマンエラー 社会安全体験実習 労働安全衛生論 メンタルヘルス論 総合防災・減災論	人間行動実験法 社会調査法 (プラントの安全)
3・4	人間行動実験実習 社会安全実践演習 (合意形成・クライシスマネジメント)	

## もし私が社会安全学部の学生だったら



林 能成  
(地震災害)

### CONCEPT

入学した時点では「これを勉強する」と決めていなかったと思う。それゆえ1年生の間は文系、理系を限定せずに、幅広い分野の講義を受講して、自分が興味のある分野が何かを模索する。

特に社会安全学部でしか学べない「製品安全論」「安全システム論」「災害事例分析」「科学技術史と社会」「安全と法制度」といった科目は必ず履修したい。さらに、3年生以上のゼミのことを考えて「気があいそうな先生」を探す。人気のある先生が必ずしも自分とあう感じがしないので。

データを見るのが子どもの頃から好きだったので、大学ではデータ解析と社会調査の方法を体系的に学びたいと考えていた。理論は頭のいい人しか研究できないので私には向いていないが、実験や観測であれば、こだわりと継続によって頭のいい人に勝てるチャンスがめぐってくる可能性はある。「社会安全のための統計学」「社会調査の基礎」などを学び、2年生以降の専門的な学びに備える。

1年間通えば、大学の勉強スタイルに慣れ、何を学ばば自分のためになるのか判断できるようになるはずである。2年次以降の時間割は、1年間学んでみないとわからないし、人によってだいぶ違ってくると思う。人のアドバイスを鵜呑みにせず、自分の頭を使って悩んで決めたい。

### CURRICULUM

1	製品安全論 安全システム論 災害事例分析 科学技術史と社会 安全と法制度	自然科学概論 社会安全のための統計学 社会調査の基礎
2		
3・4		

## もし私が社会安全学部の学生だったら



細川 茂雄  
(プラント安全)

### CONCEPT

私は機械工学の中でも熱や流体に関する学問を専門としており、プラントの安全を熱流体工学の観点から研究している。

過去のプラント事故を振り返ると、熱流体工学を含む物理・化学的な原因が多いが、事故に至る原因は一つであることは稀で、いくつかの原因が複合して生じることがほとんどである。プラントを運転しているのは人であるから、ヒューマンエラーも事故要因の一つとなることがしばしばあり、心理学やヒューマンエラーに関する知識も重要である。また、プラントが受ける外的要因として地震、津波、土砂崩れなども事故の原因の一つになることもあるから、これらに関連する学問も重要だ。

さらに、事故に対するリスクを評価しておくことも必須であるし、プラント周辺地域とのコミュニケーションも必要である。事故が起こってしまえば、事故調査に関する知識も必要となる。以上のように、プラントなど大規模な人工システムを社会の中で安全に運用するためには文理の枠を超えた幅広い知識が必要となり、このような安全に関する幅広い知識を得られるのは社会安全学部だけと言って良いだろう。

もし、私が社会安全学部の学生だったら、基礎的な力として数学・物理学・論理学に関連する科目を受講するとともに、プラントを運用する人の思考や行動に関わる科目やプラントが受ける外的要因に関わる科目、およびリスク評価や事故調査に関わる科目など以下に挙げるような科目を受講すると思う。

### CURRICULUM

1	社会安全のための数学Ⅰ 社会安全のための数学Ⅱ 論理学 心理学 科学技術史と社会 自然科学概論	安全システム論 AI実習
2	社会安全のための統計学 安全の思想 プラントの安全 耐震工学 リスクコミュニケーション	リスク評価法 ヒューマンエラー 事故調査制度論
3・4	水災害論 地盤災害論 地震災害論 社会技術論	ものづくり実習 社会安全実践演習 (合意形成、危機管理計画立案) 事故調査と事例分析実習

## もし私が社会安全学部の学生だったら



山崎 栄一

(行政法・地方自治法)

### CONCEPT

学部生の時は公務員志望であったので、それを前提としてデザインをしてみたい。まずは、①公務員になるために必要な科目と②公務員になってから役に立つ科目に分けて考えていく。

①であるが、一般教養試験を念頭に置くと基礎科目群については、選択科目はすべてとっておいて良いと言っても過言ではない。くわえて、数学系の科目は一般教養試験で一番差が出てくる科目なのでしっかりと学習をしておきたい。統計学は、公務員に就職してから役に立つ科目である。専門試験を念頭に置くと憲法・行政法や行政学、経済学も取得しておく必要がある。

②であるが、公務員になると様々な部署があるので、行政に関わりそうな科目については好き嫌いなく受講をしておきたい。

### CURRICULUM

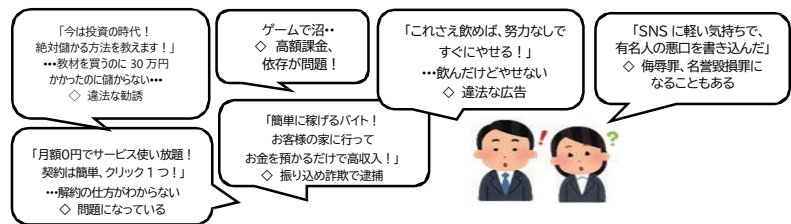
1	社会安全のための数学I 社会安全のための数学II 社会安全のための統計学 日本国憲法 法学概論	安全と法制度 行政学
2	安全・安心の行政法 リスクと災害の経済学 地方自治法 公共政策論 防災行政論	地方財政論 公衆衛生学 防災まちづくり
3・4	危機管理とリーダーシップ 消費者安全関連法 環境政策論 総合防災・減災論	災害復旧・復興論 社会安全実践演習 (危機管理本部運営)

## もし私が社会安全学部の学生だったら



岡本 満喜子  
(事故調査制度論)

### CONCEPT



私は消費者問題に関わる法制度を専門としている。では、消費者問題とは何だろう？これは一例だが、消費者問題は私たちの身近に存在する。消費者は、商品やサービスを提供する事業者と比べると、商品等の知識や交渉力が不十分である。このため、契約後に「話が違う」「こんなはずではなかった」ということが起こりうる。そこで、消費者が不本意な契約をしたときは消費者契約法や特定商取引法で取り消せるなど、消費者を守るための法律が定められている。また消費者問題は、商品等を提供した事業者(企業)にも、責任追及など大きな影響を与える。このため、企業の立場で問題の未然防止や被害の低減のためにとるべき対応も、知っておく必要がある。

ここまで、消費者が被害者になる前提で説明してきたが、消費者問題の怖いところは、消費者つまり「あなた」が加害者になるかもしれないことである。「簡単に稼げるバイト」「SNSでの悪口」のように、罪の意識が薄いまま犯罪に加担するきっかけは、意外と身近に存在する。このように、消費者問題を理解するには、幅広く体系的な法律の知識が必要である。

さらに、「あなただけ」「満足度No.1」という言葉に惹かれないだろうか？広告や勧誘の中には、人間の心理や性質を巧みに利用し、不本意な契約に導こうとするものもある。このため、消費者問題を理解し解決に導くためには、法律の知識だけでなく、人の心理や行動の理解が不可欠である。

もし私が、消費者問題を知りたいという切り口で、社会安全学部が提供する講義の中から学ぶ科目を選べるとすると、次のような科目を受講するのではないかと思う。

### CURRICULUM

1	日本国憲法 安全と法制度 法学概論 心理学 社会心理学	
2	安全・安心の企業法 リスク認知論 消費者安全関連法 ヒューマンエラー	
3・4	コンプライアンス論 事故調査制度論 人間行動実験実習	社会安全実践演習 (合意形成、危機管理本部運営)

## もし私が社会安全学部の学生だったら



菅原 慎悦  
(安全の思想)

### CONCEPT

人生とは分からないものだ。私は2003年に大学に入学したが、「安全」には全く関心がなく、哲学・都市論・表象文化論などに漠然と魅かれて、そんな講義を多く受けていた。紆余曲折あって原子力を学び、今はこの学部で「安全の思想」という講義を担当している。しかし、学部時代の学びが無意味だったかと言えば決してそんなことはなく、ふとした時に「つながる」ことがある。新しいアイデアが生まれるのは、大概そんな瞬間だ。

Macintoshの美しいフォントは、創業者スティーブ・ジョブズが学生のとき何となく履修したカリグラフィーの講義が影響しているそうだ。彼は将来を見越して計画的に履修したのではなく、後年PCデザインに没頭している時、ふと「つながった」のだと話している。

計画的に「つなげる」よりも、後になって「つながる」こと。これが人生の難しさ、奥深さ、そして楽しさだと私は思う。先々の人生で、何が役に立つのかを予測することは非常に難しい。もちろん、将来やりたいことが明確になっている人は、遠回りせずに進んでほしい。けれども、「将来就きたい業種に役立つから」や「単位取得が楽そうだから」という近道思考だけでなく、「これ面白そうだな」と直感した講義を迷わずにとってほしいと思う。

とはいえ、これでは具体的なアドバイスにならないので、並行して履修することで「つながり」が生じそうな講義群を挙げてみる。例えば「安全の思想」は、「プラントの安全」「ヒューマンエラー」「社会技術論」「事故調査制度論」などと併せて履修することで、科学技術の関係する安全・事故や個人・組織の役割を立体的に学ぶことができる。また、これらをより深く理解する上で、1年次に「哲学」「倫理学」「安全システム論」「科学技術史と社会」などを学んでおくことは有用だろう。

このほか、下記のリストには、関連性が論理的には説明できないけれども、個人的に「何となく面白そう」と思う講義も含めてある。それらがいつか、何かのきっかけで、予期せぬ形で「つながる」ことを信じながら、履修計画を立ててほしい。

### CURRICULUM

1	哲学 倫理学 社会安全のための統計学 地球科学概論 法学概論	災害事例分析 科学技術史と社会 都市建造物の歴史 安全システム論
2	社会技術論 安全の思想 危機管理とリーダーシップ リスクと災害の社会学 災害情報論 ヒューマンエラー	犯罪論 プラントの安全 防災まちづくり 事故調査制度論 社会安全体験実習
3・4	社会安全実践演習 (危機管理本部運営)	

## もし私が社会安全学部の 学生だったら



中間 千香子  
(公衆衛生学)

### CONCEPT

もし私が社会安全学部の学生として、もう一度学生生活を送ることができるのであれば、自分の得意分野である数学や統計の授業をとる一方、将来役に立ちそうな興味のある科目も履修する。企業への就職、出世、起業など(とそれらを通じた社会貢献)を目指すのであれば、コミュニケーション能力だけでなく、マネジメントや心理学、労働法規などの知識が必要である。自分の知的好奇心を満たすのみならず、将来を見据え、就職活動の面接などでアピールできるよう、カリキュラムを組む。

### CURRICULUM

1	社会安全のための数学Ⅰ 社会安全のための数学Ⅱ 社会安全のための統計学 経営学概論 社会心理学	
2	安全・安心の企業法 応用データサイエンス 消費者安全関連法 ヒューマンエラー	統計データ解析実習Ⅰ 統計データ解析実習Ⅱ
3・4	コンプライアンス論 公衆衛生学 メンタルヘルス論 労働安全衛生論 流行病の制御学	

## もし私が社会安全学部の学生だったら



福井 敬祐  
(応用データサイエンス)

### CONCEPT

私の研究テーマはデータサイエンスに関する応用や理論の構築である。データサイエンスは、客観的な存在としての“データ”から新たな知見を引き出し、価値を創造するための科学である。データサイエンスの実現にはデータを分析する統計学や機械学習の知識や実践力、分析するデータを加工・整形・収集するハンドリングする技術に加えて、データサイエンスを適用する様々な分野の知識が必要となる。

私は学生時代に理学部数学科に所属していたため、教養科目を除けば数学ばかりを学んでいた。数学を学んだことに後悔は全くないが、現在の研究テーマをより深めるためには、数学以外の学問にももう少し目を向けるべきだったという思いもある。

安全という共通テーマを基に様々な分野を学ぶことが可能な社会安全学部で学生時代を過ごすことができるならば、せっかくなので、いろいろな講義を受講してみたいというのが本音である。実際にはすべての講義を受講するというのは不可能であろうため、現在の単純な興味に基づいて、学びたい講義を以下のようにあげる。

学生の皆さんもぜひ、社会安全学部の特色を生かして、様々な分野に挑戦していただきたい。

### CURRICULUM

1	社会安全のための数学I 社会安全のための数学II 社会安全のための統計学	
2	防災まちづくり 総合防災・減災論 災害復旧・復興論 災害情報論 地方自治法 治安政策論	公共政策論 防災行政論
3・4	公衆衛生学 流行病の制御学 食の安全学 労働安全衛生論 メンタルヘルス論	

## もし私が社会安全学部の学生だったら



大野 哲之  
(水災害論)

### CONCEPT

私は大学に入学する前から、地球科学や自然災害のメカニズムに興味があった。そのため、もし私が社会安全学部の学生としてカリキュラムを選択するのであれば、1年次から数学や地球科学概論を始め、自然災害を捉えるための科目を網羅するように履修を組み立てると思う。また、近年機械学習やAIが社会のあらゆる場面で応用されつつあることも鑑みて、AI実習を通じてこうした技術をいかに使いこなすかを考えることも有意義な選択だと考える。

その一方で、一般教養科目として法学や哲学、心理学を学ぶことも私の学部時代の楽しみの一つだったと思う。理系として入学してきた私にとって、これらの講義は非常に新鮮に感じられ、物事の新しい見方を学ばきっかけになったと思う。社会安全学部では専門科目として文理問わず様々な講義を選択することが可能であるため、理系的な考え方に軸足を置きつつも、法制度や危機における人間の振る舞いの傾向について学ぶために興味のある講義を選択するだろう。

学部時代を通じて得たものをあえて一つ挙げるとしたら、学ぶことそれ自体が楽しく、喜びだということである。社会安全学を志す学生諸君には、単位取得のため、就職のためだけでなく、新しいことを学ぶ喜びをぜひとも味わってほしいと願う。

### CURRICULUM

1	社会安全のための数学I 社会安全のための数学II 社会安全のための統計学 法学概論 哲学 社会心理学 自然科学概論	自然科学概論 地球科学概論 SDGs入門 カーボンニュートラル入門 AI実習 高槻市と関西大学
2	安全の思想 防災行政論 コンプライアンス論 防災行政論 防災まちづくり 水災害論 地盤災害論 災害ジャーナリズム論 リスクと災害の社会学気候変動と地球温暖化リスク	総合防災・減災論 環境政策論 応用データサイエンス 災害心理学 地震災害論 GIS実習 耐震工学
3・4		

# テーマB

## 企業のリスクマネジメントを 学びたい



亀井 克之  
(リスクマネジメント論)

### CONCEPT

Kaplan & Mikes(2012年)によれば、企業のリスクは、①予防すべきリスク(preventable risk)、②外襲的リスク(external risk)、③戦略リスク(strategy risk)の3つに分類される。①は事故やヒューマンエラーや法令違反など、その発生を「防ぐ」。②は、地震や津波など、その発生を防ぐことはできないが、もし発生しても身を「守る」。③は、成功するか失敗するかどうか分からない状況で、挑戦する。つまり「リスクをとる」。

リスクマネジメントと危機管理の違いは、事故や災害が起こる前の「事前の」リスクマネジメントと事故や災害が発生してからの「事後の」危機管理という点にある。企業のリスクマネジメントを学ぶ醍醐味は、①事故を「防ぐ」事故防止や②災害から身を「守る」災害対策だけでなく、経営者から従業員まで③企業における「リスクをとる」戦略的な決断はいかにあるべきかを学ぶ点にある。経営者から従業員まで、企業におけるリスクマネジメントを支える「決断」と「リーダーシップ」を念頭に推奨科目群を学習していただきたい。

### CURRICULUM

1	社会安全学総論 I 安全と法制度 経営学概論 寄附講座 (安全・安心な社会を支える保険制度)
2	リスクマネジメント論 危機管理とリーダーシップ クライシスマネジメント論 コンプライアンス論 BCP 安全・安心の企業法
3・4	社会安全実践演習 (危機管理計画立案) 社会安全実践演習 (クライシスマネジメント)

## ものづくりの基本と安全性を 学びたい



川口 寿裕  
(事故のシミュレーション)

### CONCEPT

私たちを取り巻く社会は多種多様な工業製品によって機能している。鉄道、航空機、自動車などの交通機関、それらを製造する機械類、コンピュータ、さらには私たちが必要とする食品類もほとんどが工場生産によっている。

いずれも私たち人類が長年にわたって築き上げてきた「技術」によって生み出されたものであり、年月を経て問題点が少しずつ浮かび上がり、それに応じて改造、改修、改良などが加えられ、現在に繋がってきたものである。

もちろん、新しい概念が生み出され、新しい発想のもとで新しい装置・機械が生産される、その一方で破棄される技術・製品も当然ある。私たちを取り巻くこのような工業製品を「人工物」とも呼び、それらを生み出す過程を「ものづくり」と言っている。ものづくりの技術の方向性を理解し、それに係る安全の考え方、装置に埋め込む安全対策などものづくりの基本とその安全性のあるべき姿について学ぶには、例示のような科目群を学ぶことが必要である。

### CURRICULUM

1	社会安全学総論 I 社会安全のための数学I 社会安全のための数学II 製品安全論 数学実習
2	安全の思想 プラントの安全 治安政策論 ヒューマンエラー 社会安全体験実習
3・4	事故調査制度論 ものづくり実習 群集安全論

# テーマB

## 都市政策やすまい、まちづくりの安全を学びたい



越山 健治  
(都市計画・まちづくり)

### CONCEPT

社会安全という学問領域を用いて、都市政策やすまい、まちづくりを考える機会は数多くある。実際、国や地方公共団体といった公務員のみならず、ハウスメーカーや都市整備、インフラ、エネルギー関係、不動産やデベロッパー、総合商社、シンクタンクなど、さまざまな分野が関係している。

しかし、これからの日本における災害の不確実性や少子高齢化といった社会において、また世界的には持続可能性を視野に入れた中で、安全なまちを計画したり、安全な生活環境を維持したり、または社会を将来のリスクに適応させていくためには、そこにつながる体系的な知識と最新の専門的知見が必要となってくるだろう。同時に実社会で活動するためには物事を捉える視点と、それらの情報を分析・処理する能力・技術が必要となる。

ここに示す推奨科目グループは「都市政策やすまい、まちづくりの分野で社会安全の学びを活かしたい」という学生に向けたものである。この分野に文系理系といった垣根はなくどちらでもできる、というよりは、どちらも必要である、といえるだろう。

### CURRICULUM

1	社会安全のための統計学 安全と法制度 災害事例分析 自然科学概論 都市構造物の歴史 AI実習	
2	地震災害論 水災害論 災害情報論 防災行政論 公衆衛生学 災害心理学	リスクと災害の経済学 リスクと災害の社会学 気候変動と地球温暖化リスク 応用データサイエンス 統計データ解析実習I 統計データ解析実習II
3・4	防災まちづくり 火災論 保険論 リスク評価法 災害復旧・復興論 災害調査実習	災害シミュレーション実習 GIS実習 社会安全実践演習 (危機管理本部運営)

## 企業の事故・災害と危機管理に関して学びたい



高野 一彦  
(法企業倫理・コンプライアンス論)

### CONCEPT

企業における事故や災害には様々なものがある。たとえば製品の事故、従業員の交通事故や労働災害、有害物質の流出、工場の火災、自然災害、感染症などである。企業は、このような様々なリスクを評価し、事前に適切な対策を講ずる必要がある。また、万が一これらのリスクが顕在化した場合には、適切なクライシス対応を行わねばならない。

このようなリスク対策は、特に大企業においては危機管理部門を設けて対応しているが、リスクの本質を知らなければ、その合理的な対策を施すことはできない。

この推奨科目グループでは、様々な事故や災害の本質を捉えた上で、それらに対応するためのリスク管理のあるべき姿を探求する。

### CURRICULUM

1	自然科学概論 安全と法制度 化学物質と環境リスク 製品安全論	
2	地震災害論 事故調査制度論 労働安全衛生論 気候変動と地球温暖化リスク リスクマネジメント論 災害シミュレーション実習	火災論
3・4	事故調査と事例分析実習 クライシスマネジメント論 社会安全実践演習 (クライシスマネジメント) 社会安全実践演習 (危機管理計画立案)	

# テーマB

## 自然災害のシミュレーションを 学びたい



高橋 智幸  
(水災害論)

### CONCEPT

日本のみならず世界のいたるところで、様々な自然災害の発生が懸念されている。将来発生する自然災害に備えるためには、どのような災害が発生する可能性があるのかを事前に予測しておくことが重要である。

災害を予測する技術として、今日ではコンピュータを使用したシミュレーション技術が発達しており、国や自治体が行なっている被害想定では不可欠な存在となっている。この科目グループでは、津波などの水災害を例として、シミュレーションの方法を学ぶことができる。また、シミュレーション結果を活用するためのデータサイエンスやAI、GISについても学ぶことができる。

官公庁で防災行政を担当したい学生や防災コンサルタントで活躍したい学生はもちろんとして、自然災害のメカニズムを理解したい学生に強く勧める。

### CURRICULUM

1	社会安全のための数学I 社会安全のための数学II 社会安全のための統計学 自然科学概論 活用法を見聞するAI・データサイエンス 活用法を体験するAI・データサイエンス
2	応用データサイエンス 地震災害論 水災害論 地盤災害論 耐震工学 AI・データエンジニアリング実践基礎 AI実習
3・4	災害シミュレーション実習 GIS実習

## 人間が災害や事故をどのように判断するのか を学びたい



土田 昭司  
(リスクコミュニケーション)

### CONCEPT

人間が災害や事故について判断するプロセスは、必ずしも数学的な論理によるものではない。私たちの判断や認識は、経験や感情に大きく影響されたメカニズムによっている。経験や感情に大きく影響された人間の判断や認識は、重大な結果をもたらすような深刻な問題においても為されている。

そのため、災害や事故の危険性があると専門家や行政から警告されても、自分にとっては安全だと思えるので何ら対策を取らない(あるいは、危険な行動をとる)ことがある。逆に、専門家が安全であると指摘しても、危険いのではないかと感じて仕方が無いこともある。

社会において、災害や事故の危険を減じる対策を実行するのは、結局は人々の判断や認識によっている。したがって、社会に安全をもたらすには、私たちの判断や認識のメカニズムを理解することが重要である。さらに、社会全体の防災を行うには、他者の判断や認識に介入する必要があり、効果的なコミュニケーション方法についても理解することも重要である。

この履修モデルでは、心理学や社会学として、人間の判断や認識のメカニズムと効果的なコミュニケーション方法について、基本的な理論から、実習を含めて応用・実践的な課題まで、学年毎に段階的に学ぶ。行政や企業の広報部門、あるいは、行政の住民対応や企業におけるマーケティングなどで活躍したい者には必須の学びである。

### CURRICULUM

1	心理学 社会心理学 社会調査の基礎 社会安全のための統計学
2	リスク認知論 リスクコミュニケーション ヒューマンエラー 人間行動実験法
3・4	災害情報論 災害心理学 社会調査実習I 人間行動実験実習

# テーマB

## リスクコミュニケーションはどのようなものなのかを学びたい



土田 昭司  
(リスクコミュニケーション)

### CONCEPT

私たちは理想としては完璧な安全を求めるが、現実には災害・事故、あるいは、防疫や防犯など何であれ完璧な安全を達成することは不可能である。そのため可能な限り安全になるように施策を実施するが、その施策によってどの水準まで安全にするかは社会的な合意によって決められる。

また、安全を達成するためには多くの場合に社会にとって犠牲にしなければならないことが出てくる。そのため、市民、報道機関、事業者、行政、専門家間で信頼と公正な熟議が不可欠なのである。社会システムとして効率的であり、かつ、一人一人が納得できる結論に至ることを目的とする技術がリスクコミュニケーションである。

リスクコミュニケーションを学ぶには、あらかじめその基礎知識として安全やリスクとは何か、また、人間が安全やリスクに納得する心理・認知について学んでおく和良好的だろう。また、社会における人々の考えや要求を測定する社会調査法および統計手法についても学ばばより深い理解が得られるだろう。行政であれ企業などの事業者であれ、施策・事業を遂行するには安全について市民と向き合うことが必須である。将来そのような仕事・活動に関わるには重要な学びである。

### CURRICULUM

1	社会心理学 安全と法制度 科学技術史と社会 社会調査の基礎 社会安全のための統計学
2	安全の思想 リスク認知論 社会調査法
3・4	リスクコミュニケーション リスク評価法 災害ジャーナリズム論

## 社会科学から防災・減災を学びたい



永田 尚三  
(消防行政)

### CONCEPT

自然災害の発生は、地球環境問題への配慮は必要だが、基本的に、人為的及びところではない。しかし、発生した災害によりどのような被害を受けるかは、社会のありよう次第でもある。災害が起こりうると分かっている場所で社会生活を営む限り、社会は可能なかぎり、減災・防災を行わねばならない。

しかし、それをどこまでするかは悩ましい。100年に一度生じる可能性がある地震や台風、大雨などに備えたとしても、200年に一度、千年に一度の災害が生じてしまえば、そうした備えでは不十分となる。完全に災害を防ぐことは不可能であるし、そのためにどれほどの資源を割かねばならないかを社会は考慮せざるをえない。

そこで出てくるのが「減災」という考え方である。たとえ、災害を防ぎきることはできなくても、その被害をできるだけ小さなものにするために何をなすべきか、と考えるのが減災である。防災と減災の両面にわたって社会はどのように備えるべきか、それを考えることが求められている。

### CURRICULUM

1	社会安全学総論I 安全システム論 経済学概論 行政学 化学物質と環境リスク
2	公共政策論 安全・安心の行政法 防災まちづくり 災害復旧・復興論
3・4	環境政策論 社会安全実践演習 (危機管理本部運営) 社会安全実践演習 (合意形成)

# テーマB

## ヒューマンエラーに関わる諸課題と実践的対応を図るための手法を学びたい



中村 隆宏  
(ヒューマンエラー)

### CONCEPT

ヒューマンエラーと事故・災害との間に密接な関係があることは広く認識されているが、万全たる対応策は必ずしも確立されていない。ヒューマンエラーに対する誤った認識から誤った対策が導かれることにより安全対策の効果が損なわれ、事故や災害の再発につながる事態も起こりうる。身近な出来事から社会的に大きな影響を及ぼした大事故に至るまで、様々な事例の背景要因を探りつつ、ヒューマンエラーの本質を把握し事故・災害を防止するための方策について考察することが必要となる。また、ヒューマンエラーを理解し対策を立案するためには、心理学に関する基礎的な知識、および適切な実験手法・調査手法を通じた論理的な手続きを習得する必要がある。

そこで、1年次において「心理学」「社会心理学」「社会安全のための統計学」を通じて、人間や集団についての基礎的な知識と研究手法を学ぶ。2年次において「社会安全体験実習」「ヒューマンエラー」を通じて身近に存在するリスクとその対応、および人間・システムの限界について学ぶとともに、「人間行動実験法」を通じて課題解決に向けた手法について習得する。3年次には、「人間行動実験実習」を通じて、卒業研究を視野に入れた研究手法の具体的展開を図る。

### CURRICULUM

1	心理学 社会心理学 社会安全のための統計学
2	社会安全体験実習 ヒューマンエラー 人間行動実験法
3・4	人間行動実験実習

## 心身の健康に関する研究手法を学びたい



廣川 空美  
(労働安全衛生論)

### CONCEPT

人々の心身の健康について学ぶためには、生理学、医学、薬学、疫学、栄養学、心理学、倫理学、社会学など多くの学問領域の基礎知識が必要となる。

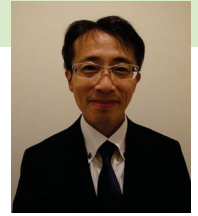
社会安全学部においては、多領域にまたがる学際的な科目を学ぶことが可能である。人の心身の健康に関する研究テーマで卒業論文をまとめるためには、社会調査法や人間行動実験法、人間行動実験実習を履修することで、基本的な研究計画の立案、データ解析の手法、研究レポートのまとめ方などが習得できる。

### CURRICULUM

1	心理学 社会心理学 倫理学 化学物質と環境リスク 現代の国際社会 社会調査の基礎
2	化学物質と環境リスク 公衆衛生学 メンタルヘルス論 食の安全学 社会調査法 人間行動実験法
3・4	医療と医薬品と安全 流行病の制御学 労働安全衛生論 社会調査実習I 社会調査実習II 人間行動実験実習

# テーマB

## 運輸の安全について学びたい



吉田 裕  
(交通システム)

### CONCEPT

運輸分野(自動車、鉄道、航空、船舶)における事故防止や安全の確保は国民が安心して暮らせる社会を実現するうえで必要不可欠である。ところが、船舶の事故や鉄道車内における一連の殺傷事件等、不特定多数の一般人が犠牲となる運輸の事故、事件は後を絶たない。

運輸の事故は社員ヒューマンエラーや会社の組織要因をはじめ、自然災害、テロ・犯罪とさまざまな要因が起因して発生している。将来にわたり運輸事故の防止や減災を図る上で、運輸会社とその社員に関する安全対策の策定は勿論、利用者をはじめ社会の視点も欠かすことはできない。これらを総合的に理解するには、文系・理系の垣根を越えた幅広い知識が要求され、既存の学問分野を横断的に学ぶ必要があると考える。

将来、社会安全学部で学んだ知識が社会で活かされ、社会の安全性向上に貢献できると思う。

### CURRICULUM

1	安全システム論 科学技術史と社会心理学
2	総合防災・減災論 事故調査制度論 事故調査と事例分析実習 地震災害論 交通システム安全論
3・4	災害心理学 群集安全論 ヒューマンエラー

## 事故を起こしたときに問われる責任について学びたい



岡本 満喜子  
(消費者安全)

### CONCEPT

人のミスが原因になる事故は少なくない。ただその背景に、その人が操作していた設備や作業環境、所属する組織の安全への姿勢など様々な要因がある。責任を問う前提として、これらの事故原因を適切に把握する必要があるが、そのためにはヒューマンエラー、心理学に加え、組織のあり方に関する知識が不可欠である。

人のミスを法律上の過失という観点でみた場合、当事者だけでなく同僚や組織自体も責任を問われうる。また、民事責任と刑事責任は責任を問う目的や手段が異なるため、法体系全体を理解した上で、各法律の位置づけを理解する必要がある。

そして、責任追及に力点を置きすぎると当事者が口を閉ざし原因究明が難しくなる一方、責任追及を制限すると被害者の処罰感情にこたえないという課題が生じる。

以上の知識を身につけ、課題解決に向けて検討するためには、例示の科目群を学ぶことが必要である。

### CURRICULUM

1	日本国憲法 安全と法制度 法学概論 心理学 社会心理学
2	安全の思想 安全安心の企業法 人間行動実験法 ヒューマンエラー 事故調査制度論 事故調査と事例分析実習
3・4	コンプライアンス論 交通システム安全論 交通事故と損害保険 リスク認知論 人間行動実験実習

# テーマC

## 自然科学的な視点から事故を議論 できるようになりたい

### CONCEPT

各種交通機関や工場等において、多くの事故が発生している。人が多く集まる場所では群集事故の危険性も高い。それらの事故の発生原因やメカニズムを正確に理解・把握することは、事故再発防止の観点から重要である。

事故には人的・体制的要因も含まれるが、直接的な原因やメカニズムの理解には力学等の自然科学の知見が不可欠となる。また、近年はコンピュータ・シミュレーションを利用した事故解析も行われるようになってきているが、その手法やモデルを理解せずに結果だけを鵜呑みするのは非常に危険である。

本履修モデルでは、自然科学的な観点からの事故解析やコンピュータ・シミュレーションを行うための基礎知識を学ぶ。このことを通じて、解析やシミュレーションの結果の意味や限界等を判断できるセンスを身につけることを目指す。

### CURRICULUM

1	社会安全学総論I 社会安全のための数学I 社会安全のための数学II 自然科学概論 製品安全論 安全システム論	IT実習 数学実習
2	群集安全論 リスク評価法 プラントの安全 事故調査と事例分析実習	
3・4	ものづくり実習	

川口 寿裕  
(事故のシミュレーション)

## 事故や災害を専門とするジャーナリスト になりたい

### CONCEPT

上記の見出しは「ジャーナリスト」に限定してセットしているが、将来、リスクに関する「情報」を取り扱う仕事をしてみたいと考えている人は、ぜひ、以下の文章にも目を留めてほしい。

現代の高度情報社会においては、リスクに関する情報が溢れかえっている。そうした“情報の渦”の中から、どの情報が重要であるのか見定めて、それらを国民・住民・読者・視聴者に適切なかたちでわかりやすく届けことがジャーナリストの使命である。この仕事には、幅広い知識をベースにしながらも、事態を鋭く一ときに素早く洞察する力が求められている。

情報というキーワードが含まれている科目を中心に据えて履修するとしても、その他に個人や集団の心理、社会の成り立ち(法や行政や経済など)、コミュニケーションや教育のありかた、そして、歴史的な観点からも自らの思考を鍛えておくとよいだろう。さらに、文系・理系の枠にとらわれることなく、サイエンス(科学)という営み自体にも関心を持つようにしておかなければならない。なぜならば、多くの情報は“科学的な知見”(客観的なデータ)を織り交ぜながら一ときに、科学的であることを装いながら一伝達されているからだ。

推奨したい科目のごく一部を右記のリストに示した。しかし、ジャーナリストやリスク情報を扱う人は、学びの深さとあわせて、学びの広さが求められる。大学時代に、できるだけ多くの科目を受講して、学ぶ喜びを感じてほしい。

### CURRICULUM

1	災害事例分析 安全システム論 防災教育 現代の国際社会 安全と法制度 社会心理学	科学技術史と社会 社会調査の基礎
2	災害情報論 防災行政論 社会安全のための統計学 災害ジャーナリズム論 危機管理とリーダーシップ	リスクと災害の社会学 リスクと災害の経済学
3・4	総合防災・減災論 災害心理学 社会安全実践演習 (合意形成、危機管理本部運営) 社会技術論	犯罪論 ヒューマンエラー

近藤 誠司  
(災害情報)

# テーマC

## 企業の経営者・経営幹部になりたい



高野 一彦

(法企業倫理・コンプライアンス論)

### CONCEPT

将来、企業の経営者になりたい、幹部社員として多くの部下を率いて企業で活躍したい、そのような夢を持っている学生諸君は多いのではないだろうか。

企業を経営するためには、様々な知識と経験が必要である。まずは経営学である。経営者は経営戦略を練り、リーダーシップを発揮して組織を管理・運営する役割がある。また会計や資金繰り、将来のための投資など、お金に関する知識も必要である。一方で、企業活動は法律行為の連続である。取締役会や株主総会の運営、取引先や顧客との取引・アライアンス、個人情報や営業秘密などの情報管理、従業員の労務管理など、企業経営にかかわる法律は多岐にわたる。さらに、企業経営は常に順風満帆ということはなく、時としてクライシスが発生することがある。クライシス発生時の経営判断により、企業はその価値を向上させることもあるが、逆に会社に莫大な損害をもたらすこともある。従って経営者は平時から、クライシス発生時に合理的な経営判断を行うための訓練が必要である。

この推奨科目グループでは、企業経営に必要な経営学、法学、企業倫理・CSRなど、多岐にわたる学問分野を一通り学んだ上で、リスクマネジメントやクライシスマネジメントに関する模擬的な経営判断を経験することによって、企業の経営者や幹部社員が持っていなければならない素養を習得することができる。

### CURRICULUM

1	社会安全学総論I 社会安全学総論II 安全と法制度
2	コンプライアンス論 経営学概論 BCP 安全・安心の企業法 リスクマネジメント論
3・4	クライシスマネジメント論 社会安全実践演習 (クライシスマネジメント) 社会安全実践演習 (危機管理計画立案)



高野 一彦

(法企業倫理・コンプライアンス論)

### CURRICULUM

## 大企業のコンプライアンス部門、リスクマネジメント部門で働きたい

### CONCEPT

近年、企業に自律的なコンプライアンス体制の確立を求める法や原則が急速に整備されている。それは、個人情報保護法、公益通報者保護法、会社法、金融商品取引法などのわが国法制度であり、また国連のビジネスと人権に関する指導原則などの国際的な原則である。

これらの法や基準は、企業に対しコンプライアンス体制、リスクマネジメント体制の構築を求めている。企業を取り巻くこのような法や原則の変化を俯瞰すると、現在は社会システムの転換期であるといえるであろう。企業は、このような内外の社会的要請を視野に入れ、これに的確に対応する経営を行う必要がある。特に大企業においては、これらの対応を行う専門部署を設けており、そのような専門部署で働いている本学部のOB・OGも多い。

この推奨科目グループでは、このような社会システムの転換という大きな流れを俯瞰的に学び、大企業のコンプライアンス部門、リスクマネジメント部門で働くための専門知識と素養を習得する。

1	社会安全学総論I 社会安全学総論II 安全と法制度
2	コンプライアンス論 安全・安心の企業法 犯罪論 情報セキュリティ論 安全・安心の行政法 リスクマネジメント論
3・4	クライシスマネジメント論 社会安全実践演習 (クライシスマネジメント) 社会安全実践演習 (危機管理計画立案)

# テーマC

## 科学コミュニケーターとして活躍したい



元吉 忠寛  
(災害心理学)

### CONCEPT

科学コミュニケーターとは、科学者や技術者と一般の人々をつなぐ役割を担う人である。あまりなじみがないかもしれないが、一般の人や子どもたちに科学技術の重要性やおもしろさをつたえたり、社会におけるさまざまなリスク(自然災害における緊急時の行動やCOVID-19)について人々が抱く疑問や不安を解消したり、社会安全やSDGsにかかわる諸問題の解決方法を科学技術の専門家や一般の人々とともに考えたりする役割が期待されている。

そのためには社会安全に関する幅広い分野の専門知識を身につけるだけでなく、その知識や問題の重要性をどうすればほかの人々にわかりやすく伝えることができるかといった高度なコミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキルが求められる。

### CURRICULUM

1	安全と法制度 科学技術史と社会 社会心理学 自然科学概論
2	社会技術論 災害情報論 リスク認知論 食の安全学 地震災害論
3・4	社会安全実践実習 (クライシスマネジメント) 災害ジャーナリズム論 リスクコミュニケーション 医療と医薬品と安全 環境政策論

## 保険会社で働きたい



桑名 謹三  
(保険論)

### CONCEPT

保険会社で働くためには、①「契約」としての保険の理解と、②「リスクを評価し保険料に置き換える仕組み」としての保険の理解が必要となってくる。

①のためには、法律の理解(法律とはどういうものかに慣れておくこと)が必須である。

また、②のためには、数学・統計学の理解が必須である。

### CURRICULUM

1	法学概論 安全と法制度 社会安全のための数学I
2	保険論 社会安全のための統計学 リスクマネジメント論
3・4	交通事故と損害保険 消費者安全関連法

# テーマC

## 社会で求められているIT・AI人材 になりたい



河野 和宏  
(情報セキュリティ)

### CONCEPT

IT・AIに関する知識を有し、それらを活用する能力は、高度情報社会の現代において必須のものとなっている。たとえば、国家試験である情報処理技術者試験の一つである「ITパスポート試験」では、ITを活用するすべての社会人・これから社会人となる学生が対象と述べられ、政府が進める「AI戦略 2019」では、初級のリテラシーレベルであれば全大学生が知っておくべきものと説明されている。そのため、どの大学・学部でも、社会で求められるIT・AI人材を育成しようとする力を入れている最中である。

ここで、IT・AIを活用する人材といっても、ITやAIと聞いて想像するであろう「テクノロジー」に特化した人材に限定されるものではない。前述のITパスポート試験では、コンピュータやネットワークの仕組みといったテクノロジーに関する知識だけでなく、マネジメントや経営戦略、財務、法務といった、管理者・経営者視点からの幅広い知識が問われ、試験問題数的にはむしろテクノロジー系以外の方が多い。AI戦略2019でも、理工系出身のプロフェッショナルなAI研究者・開発者の育成よりはむしろ、AIを理解し、社会の中でAIを使いこなせる人材(文系型のAI人材)の育成に焦点が当てられている。

この履修モデルでは、ITに関する幅広い知識を学ぶことに始まり、AIやデータサイエンスに関するスキルやその背景となる基礎的な数学的知識を修得しつつ、防災・減災分野でのIT・AIの利用に関する知見を深めることができるモデルを提供している。社会災害・自然災害、社会科学・自然科学、どれもが入る、各領域を横断的に学ぶモデルとなっている。なお、()の科目は共通教養科目である。

## 国際的な防災・減災に貢献できる人 になりたい

### CONCEPT

国際的な防災・減災に貢献するためには、途上国で発生する自然災害の防災・減災の問題は無視できないものである。ヨーロッパの多くの大学では、当該国の中で巨大な自然災害が発生することがまれなため、防災・減災を国際協力の視点で捉えているところが多い。

それらの大学においては、防災・減災は公衆衛生の問題と共に議論されることが多い。また、それらの大学では、個別の研究課題に取り組む前に、研究の方法論と具体的な研究法を学ぶことが求められる。

### CURRICULUM

1	安全と法制度 経営学概論 自然科学概論 倫理学 (活用法を見聞するAI・データサイエンス) (活用法を体験するAI・データサイエンス)	IT実習 AI実習 社会安全のための数学Ⅰ 社会安全のための数学Ⅱ
2	応用データサイエンス リスク評価法 リスクマネジメント論 社会安全のための統計学 GIS実習 (社会のためのデータサイエンス実践基礎) (AI・データエンジニアリング実践基礎)	消費者安全関連法 地盤災害論 水災害論
3・4	統計データ解析実習Ⅰ 統計データ解析実習Ⅱ 災害シミュレーション実習 情報セキュリティ論 コンプライアンス論	BCP 群集安全論 災害情報論



城下 英行  
(防災教育)

### CURRICULUM

1	社会安全のための統計学 科学技術史と社会 現代の国際社会 世界地理 哲学 地球科学概論	SDGs入門 災害事例分析 防災教育 社会調査の基礎
2	安全の思想 社会技術論 公共政策論 リスクコミュニケーション 気候変動と地球温暖化リスク	公衆衛生学 災害情報論
3・4	環境政策論 社会調査実習Ⅰ 社会安全実践演習 (合意形成)	

# テーマC

## 「社会調査士」になりたい



菅 磨志保  
(社会調査)

### CONCEPT

リサーチスキルは、いまやどんな職種でも求められる重要な能力。とりわけ、行政、防災専門機関、資源・エネルギー、ライフラインなど社会の安全を守る仕事には欠かせない能力である。

以下の科目群は、主として定量的な(調査票を使って調査対象集団の統計的な特徴を把握する)調査の設計・実施・分析能力の習得を目指しており、これらの単位を取得することで社会調査協会が認定する「社会調査士」の資格も取得できる。

社会調査は、社会問題を解明したり、人々の共通認識を創っていく重要な役割を果たしてきたが、他方で、人のプライバシーを侵害したり、社会的な認識を歪めたり、間違った方向に人々を誘導する可能性も孕んでいる。社会調査の長所と短所を理解し、うまく使いこなしていく能力を身につけて、「社会調査士」として社会で活躍して欲しい。

[参考]一般社団法人 社会調査協会の学生サイト  
<https://jasr.or.jp/students/>

### CURRICULUM

1	社会調査の基礎Ⅰ【社A】 社会安全のための統計学【社D】
2	社会調査法【社B】 統計データ解析実習Ⅰ【社C】 統計データ解析実習Ⅱ【社E】
3・4	社会調査実習Ⅰ【社G】 社会調査実習Ⅱ【社G】